

あなたもカウンセラー

—反社会的行動を持つ生徒について—

教育相談部 朽木 耕作・畠腹 桂子・鈴木喜三郎

今回は、「喫煙をした女子中学生」について、「家族へのアプローチを中心とした指導援助」により、改善が見られた事例についてご紹介いたします。

95号 校内研修に基づく不登校児への対応例

96号 喫煙をした女子中学生

(※97号 特集号につき休み)

98号 集団理解と集団指導について

喫煙をした女子中学生

1 問題の発生と概要

夏休みが明けて一週間後、2年のT子が女子バレーボール部の部室で、友人3人と喫煙しているところが発見された。早々に個別指導がなされたが、その中で明らかになったのは

- ・最近は何をやってもつまらない。
家に帰っても楽しくない。母は最近は特にピリピリしている。
- ・たばこやライターはT子が家から持ち出したものであること。
- ・喫煙に誘ったのもT子であること。
- ・他の2人は別の学級だが、同じ部であり仕方なくT子に付き合ったこと。

などであった。T子の学級担任は、1学期には問題もなくおとなしかった生徒がどうしたのだろうと、指導要録、学級経営誌の中の個別指導記録簿、家庭環境調査票、教科担任、部活動顧問、養護教諭などから情報を収集してみた。

2 資料

学業成績・知能

1学期は、9教科平均が3（保健体育、家庭、美術は2、音楽は4、他が3）

知能偏差値は49

家庭環境（団地、一戸建）

父 = 51才 会社員 電気技師

母 = 42才 専業主婦

兄 = 普通高校3年生（進学高）

本人 = 中学2年生

部活動顧問の観察

バレーボール部の練習は、1学期中は熱心であったが部長との関係はよくない。

教科担任の観察

夏休みが明けてからの授業は眠そうな態度であり、1学期に比べても消極的になった。

総合的に見ても、夏休みを境に変容した理由は、資料や他の教師の観察からは、つかむことができなかった。